

佐賀大学校友会（支援事業報告）

令和2年11月14日
(第9回佐賀大学ホームカミングデー)

佐賀大学校友会では、昨年10月から新体制となった児玉浩明学長のもとで、校友会役員をはじめとする会員や佐賀大学同窓会と共に校友会組織の拡大と多くの学生への支援ができる体制づくりに取り組んでまいります。

今回、第9回佐賀大学ホームカミングデーを開催するにあたり、参加者の皆様に学生の諸活動への支援及び校友間交流への支援の状況を報告し、多くの方に佐賀大学校友会の設置の趣旨や活動内容に御理解をいただきたく思っております。

本日は、令和元年度に校友会からの奨励金により海外の協定校へ留学した代表学生の報告会と、これまでの校友会の活動状況を報告いたします。

また、これまでの支援状況は、ホームページにて最新の情報を提供していますのでぜひ一度ご覧ください。

佐賀大学校友会ホームページ：URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>



佐賀大学校友会

概要

- 校友会会長挨拶
- 校友会事業の概要
- 校友会事業の内容
- 校友会組織
- 校友会会則
- English

情報

- 校友会会報
- 支援状況報告
- お知らせ
- イベント情報

校友会会員

- Web登録
- 会費（納入方法）

その他

- 佐賀大学同窓会
- お問い合わせ
- このサイトについて

佐賀大学は、1949年に旧制佐賀高等学校、佐賀師範学校、佐賀青年師範学校を母体として、佐賀県佐賀市本庄の地に創設されました。その後、県内唯一の医科大学として1976年に設置された佐賀医科大学と2003年に統合、さらに2016年には有田県で有名な佐賀県立有田農業大学校との統合を経て、現在の6学部（教育、芸術・地域デザイン、経済、農、理工、農）、64研究科（学校教育学、地域デザイン・先端健康科学、医学系、理工学、工学系、農学）体制となり、県内に本庄・鏡島・有田の3キャンパスを有する国立総合大学として教育・研究・社会貢献活動を展開しています。

現在は、開校60年を経て来館者も22万人を超える佐賀大学美術館をはじめ、附属図書館や附属学校・園、指定機能病院として地域医療を支える附属病院のほか、持続可能な社会の実現に向けた研究を推進する海洋エネルギー研究センター、シンクロトロン光応用研究センターや超微細セラミック研究センターといった先端的研究施設を活用しながら、地域が抱える課題解決に取り組み、地域に貢献とされる地（知）の拠点となることを目指しています。

本学は、これまで培ってきた多分野の教育研究資源を礎に、時代の変化に翻応されない教養と、社会が求める専門性を習得した学生を輩出する「教育先導大学」を目指します。また、これら資源を有機的に結合させ、本学独自の教育プログラムを構築し、多様で汎用性ある人材を育成したいと考え、教職員一同、全力を尽くしていきます。

しかしながら、少子高齢化社会が本格的に進んでいく中で、本学のような地方に位置する一国立大学が生き残っていくためには、本学の教職員の努力は勿論のこと、関係者の皆様方のご理解とご支援が不可欠です。また、「大学とは生誕したって自ら学ぶ姿勢」を身に付ける場ですが、学生が学生生活において様々な活動に参加していくためには、大学の経営資源のみでは十分に賄えない状況にあります。

そのような中で、校友会設立後、皆様からの会費により、異文化交流支援、海外派遣支援、課外活動等の支援として、これまでに2千万円を超える額を学生に交付し、また校友間交流支援事業として、ホームカミングデー等を開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

このように、学生がより良いキャンパスライフを送ることができるよう支援、支援していくことが佐賀大学校友会の使命であると考えています。

今後、佐賀大学校友会は、卒業生、同窓生、教職員、在学生の保護者等に限りず佐賀大学に関係のある方々や企業・団体の皆様を含めた校友の組織づくりに取り組んでいきます。

会員の皆様におかれましては、引き続き佐賀大学校友会事業にご理解をいただき、とくに、格別のご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

令和元年10月
国立大学法人佐賀大学
学長 児玉 浩 氏

佐賀大学校友会ホームページ

概要

校友会会長挨拶
校友会事業の概要
校友会事業の内容
校友会組織
校友会会則
English

情報

校友会会報
支援状況報告
お知らせ
イベント

校友会会員

Web登録
会費（納入方法）

その他

佐賀大学同窓会
お問い合わせ
このサイトについて

皆様のご期待に沿えるような活動内容や情報発信ができるよう日々取り組んでいきたいと思っております。

皆様からの校友会に対するご意見等お待ちしております。

佐賀大学校友会 事務局

～～ 奨励金受給者による報告 ～～

海外派遣奨励金受給者（令和元年度受給）

アメリカ留学を振り返って

教育学部学校教育課程小中連携コース中等教育主免英語科 國弘 貴之

留学先：アメリカ スリッパリーロック大学

派遣期間：令和元年8月～令和2年3月

○ 奨学金受給の使途・効果

支援いただきました奨学金については、現地での生活費として使わせていただきました。留学生活を送るにあたり生活費は必ず必要なものでアメリカでの生活は日本と比べてなかなか慣れない部分もありましたが、金銭面でもスムーズに困難なく送ることが出来ました。ありがとうございました。



○ 短期的な視点で一言

この留学を通して、学びたかった外国語教育について実際に目で見て学べたことや様々な授業を受けることが出来たのはもちろんのこと、日本では経験できなかった皆さんのことを経験することが出来ました。留学に行ったらほんとによかったなと思います。



○ 長期的な視点で一言

私は将来教員になりたいと考えています。アメリカでの経験を教員として働く際に役立てたいです。私たち日本人にとって英語は学校で学習するイメージが強く社会生活の中で使うことはあまりありませんが、そのような時代が来ないとは言いきれません。外国語を教える教員として、今回のアメリカ留学から学ぶことはたくさんあったと感じます。



○ 校友会の皆様へ

私にとってこの留学は人生におけるかけがえのない財産になりました。一年間を通して様々な経験ができたのは校友会の皆様からのご支援があってこそです。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

海外派遣奨励金受給者（令和元年度受給）

リトアニアでの留学を振り返って

芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科 首藤 舞央梨

留学先：リトアニア ヴィタウタス・マグヌス大学

派遣期間：令和元年8月～令和2年2月

○ 奨学金受給の使途・効果

支援していただきました奨学金については、主にリトアニアに渡航する際の航空券の費用として使わせて頂きました。留学における費用の中でも大きな出費の一つであったため、とても助かりました。



○ 短期的な視点で一言

交換留学先の学校では、芸術学部所属し、主に専門科目の授業を受講しました。また、リトアニアの文化に触れる活動に参加したり、日本語や日本の文化について伝える取り組みに参加したりと、日本ではできない貴重な経験ができました。リトアニアでの様々な体験を通して学んだことを、自分の制作の技術や表現の向上に繋げていきたいです。



○ 長期的な視点で一言

この交換留学では、まず、私の専門である人形アニメーションに必要な諸要素の知識を日本で学ぶとは違った視点から学ぶことが出来ました。そして、海外の学生や先生方との交流、リトアニアやヨーロッパの文化を知ることを通して、自分の世界観を広げることができたと感じています。これからは、この交換留学での学びから、自分ならではの作品を作っていきたいです。



○ 校友会の皆様へ

校友会の皆様が支援してくださったことで、より一層充実した留学生活を送ることができたと感じています。本当にありがとうございました。この交換留学での経験を糧に、今後も夢に向かって成長し続けていきたいです。

～ 令和元年度の支援状況（学生支援） ～

課外活動等支援金（2件 100,000 円）・・・ｽﾎｰﾂ・文化活動への支援

FMｽﾎｰﾂ研究会（個人）	経済学部	第36回NHK全国大学放送ｺﾝﾍﾞｽﾄ ｱｶｼﾏ部門第2位	中 尾 榛 花
FMｽﾎｰﾂ研究会（団体）		第36回NHK全国大学放送ｺﾝﾍﾞｽﾄ 音声CM部門第2位	代表 理工学部 川 崎 龍 青

国際交流奨励金（4件 20 万円）・・・学生の国際的な活動のための支援

理工学部知能情報システム学科	野 柳 晴 華
派遣期間等：海外における研究会、共同研究（令和元年7月26日～令和元年7月31日）	
派遣先：アメリカ	

理工学部知能情報システム学科	田 川 来 夏
派遣期間等：海外における研究会、共同研究（令和元年7月26日～令和元年7月31日）	
派遣先：アメリカ	

大学院工学系研究科博士後期課程システム創成科学専攻	CHO KYI SOE
派遣期間等：その他海外における活動（令和元年10月4日～令和元年10月15日）	
派遣先：スペイン	

大学院理工学研究科修士課程理工学専攻	徳 丸 航 暉
派遣期間等：海外における研究会、共同研究（令和元年12月9日～令和元年12月14日）	
派遣先：シンガポール	

海外派遣奨励金（7件 1,500,000 円）・・・海外留学のための支援

経済学部経済法学科	桒 岡 明 音
留学先等：タイ カセサート大学	
留学期間：令和元年8月～令和元年12月	

芸術地域デザイン学部芸術デザイン学科	首 藤 舞央梨
留学先等：リトアニア ヴィタウタス・マグヌス大学	
留学期間：令和元年8月～令和2年1月	

農学部応用生物科学科	池 山 裕一郎
留学先等：リトアニア ヴィタウタス・マグヌス大学	
留学期間：令和元年8月～令和2年1月	

経済学部経済学科	清 田 早 貴
留学先等：フィンランド ユバスキュラ大学	
留学期間：令和元年9月～令和元年12月	

教育学部学校教育課程	國 弘 貴 之
留学先等：アメリカ スリッパリーロック大学	
留学期間：令和元年8月～令和2年5月	

教育学部学校教育課程	松 本 音希子
留学先等：オーストラリア ラトロープ大学	
留学期間：令和2年2月～令和2年11月	

理工学部機械システム工学科	栗 原 航太郎
留学先等：リトアニア ヴィタウタス・マグヌス大学	
留学期間：令和2年2月～令和2年12月	

～～ 令和元年度の支援状況（校友間交流支援） ～～

校友間交流事業（海外版ホームカミングデー）

○佐賀大学ホームカミングデー in クアラルンプール

開催日：令和元年12月14日（土）

会 場：マレーシア・クアラルンプール市内ホテル

概 要：佐賀大学寺本理事・副学長をはじめ、マレーシアの協定校と交流を持つ学内教職員、各協定校の役員・教員らのほか、在マレーシア日本国大使館、現地の日本政府・企業関係者や元留学生ら、総勢90名が参加。マレーシアでの開催は、初。寺本理事・副学長の挨拶の中で、現在マレーシアと本学とはマレーシア工科大学（UTM）、マレーシア プトラ大学（UPM）、マレーシア トゥンフセインオン大学（UTHM）をはじめとして教育研究の交流を深めていること、マレーシアは今後も本学にとって国際交流の最も重要な地域の一つであることが述べられた。式中、佐賀大学で学んだマレーシア人留学生会の発足式が行われ、顧問のナザミッド・サアリ氏、副会長補佐のムハンマド・ニザム・ザカリヤ氏に佐賀大学友好特使を委嘱。最後に、出席者全員で記念写真を撮り、別れを惜しみつつ再会を約し閉会。



校友間交流事業（ホームカミングデー）

○第8回佐賀大学ホームカミングデー

開催日：令和元年11月16日（土）

会 場：佐賀大学理工学部6号館、かささぎホール

概 要：全ての卒業生及び名誉教授を対象
卒業生の方45名、名誉教授18名を含む89名が参加

企 画：大学の研究紹介

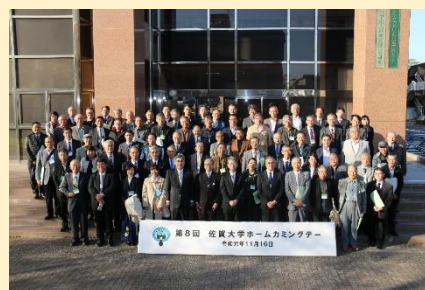
「突然変異を使った品種改良技術の新展開」

講師 農学部附属アグリ創生教育研究センター長 穴井 豊昭 教授

学生支援事業奨励金受給者による報告会

農学部植物工場見学

かささぎホールにて懇親会



**佐賀大学校友会では、会員に
なっていただける方を募集しています！！**

【問い合わせ先】

佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1(国立大学法人佐賀大学)

電話 0952-28-8390

(月曜日から金曜日 8:30～17:15 [祝日は除く])

ホームページURL <http://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>

会 費

- 正 会 員 (個人) 20,000 円 (終身会員)
2,000 円 (年会費) ※2 万円に達した場合は、終身会員になります。
- 賛助会員 (団体に限ります)
1 口 50,000 円

払込方法

- 現金または郵便局振込にてお願いします。
- ・現金の場合は、佐賀大学校友会事務局にて受領いたします。
- ・郵便局の場合は 振替口座／01760-049425
振替名義／佐賀大学校友会
(振込料金は、校友会で負担いたします。)